

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 22 章 パート 1

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

黙示録 22 章。さあ、始めましょう！

天のお父様。これからみことばを見ていく中で、あなたの御子と心を合わせることが出来ますように。そして、天国の情景を高く舞うことが出来ますように。

また、天の王国は将来の話というだけでなく、私たちの中に既にあるということが理解出来ますように。主よ。聖霊の力とみわざと臨在によって理解を与えて下さい。

イエスの御名によって祈ります。アーメン。

黙示録 21 章と 22 章は、真新しい創造と輝く新しい都について書かれています。

21 章は真新しい創造である新しい天と新しい地の登場で始まり、その中には、前回学んだ“新しいエルサレム”という、サイズにして約 77 億 km³、立方体の形をした 12 階層の巨大な新しい都があって、これが天と地の間に停止し、地の上に浮かんでいます。

前回もお話しましたが、もし天国の人口が 30 億人とすると、歴史を通して地球上に存在した信者数が 30 億人というのはかなり多い見積もりですが、その数で計算すると、この輝く新しい樂園の都で、各人それぞれ一人につき 2.5 km³が与えられることになります。

しかも私たちは都の中だけに限られず、あなたにも私にも、自由に行き来して楽しむための宇宙全体、新しい天地が与えられます。栄光あれ！

この新しいエルサレムは、未だかつて誰も見たことのないような所で、今回の学びの 22 章でもこれについて少し触れています。

私たちもいつかはここに住むわけですが、とても素晴らしく庭園のような都。

人類の歴史は園で始まり、園で終わる。

『庭園の都』。これについて 1 節に書かれています。

御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。

それは神と小羊との御座から出て、(黙示録 22:1)

天と地の間に浮かぶ新しくて巨大な都。私たちが住み、出入りする所。

この都には中央を流れる川があり、その水は清らかです。

その辺の川とは大違いですよ！

それは汚染されていないくて、産業廃棄物が表面を覆ったりしていません。

この清らかな川が実際に都の中央を流れているのです。

そして、この川には面白い特徴があります。

聖書で“川”が象徴するもの、シンボルとなっているのは、“繁栄”と“喜び”

詩篇では、川は、繁栄の象徴としてはあまり頻繁には書かれていませんが、たとえばここ、[あなたの楽しみの流れを、あなたは彼らに飲ませなさいます。\(詩篇 36:8\)](#)

「あなたの楽しみの流れ」

みことばの中には、“流れ”と“楽しみ”もしくは“繁栄”の並列が度々出て来ます。

ご存知の通り詩篇 1 篇では、[その人（主を信じる人）は、水路のそばに植わった木のようにだ。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。\(詩篇 1:3\)](#)

聖書の多くの箇所、川が繁栄と楽しみに関連づけられているということに、私は驚きました。直接的には、繁栄と楽しみがある所は、聖霊と固く結びついているということが分かります。聖霊。

イエスはこう言いました。

[「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。\(ヨハネ 7:37\)](#)

[その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」\(ヨハネ 7:38 新共同訳\)](#)

ここを指摘する理由は、サタンが人を破滅させるために使う最もパワフルな二つのものが“快楽”と“繁栄”だから。

あらゆる人々を引き込んで、快楽や肉の強烈な欲望を満足させようとしたり、「まだまだ足りない。」

「更に上を目指そう！」「もっと良い物を！」と繁栄を求めさせます。

そうして人々は、偽の楽しみや偽の繁栄という罠にかかる。これは悲劇ですよ。

サタンの楽しみや繁栄はどうなるかという、快楽への欲求がどんどん強くなるのです。

同時に、その楽しみに対して、満足感がどんどん減っていき、「まだまだ足りない！」

ドラッグであれ、セックスであれ、何でもです。

もっともっと、となって、ますます欲しくなるけれど、どんどんどんどん減っていく。

もっと欲しい、減っていく。もっと欲しい、減っていく。

それがトリック。罠。それは悲劇で、最終的には破滅する。

それがサタンの究極の計画です。

イエスはサタンを殺人者、破滅させるものと呼びました。これがサタンの性質です。

サタンの計画は、破壊し、破滅させ、殺すこと。

そのためにトリックの快樂や繁栄を用いるのです。興味深いですね。

しかし、人が本当に渴望しているものは、聖霊から溢れ出る真の楽しみであり繁栄です。

それが大切なのです。

では、主は何と言っているのでしょうか。エレミヤ書 2:13。

わたしの民は二つの悪を行った。

湧き水の泉であるわたしを捨てて、多くの水ためを、水をためることのできない、こわれた水ためを、自分たちのために掘ったのだ。(エレミヤ書 2:13)

彼らは生ける水の川であるわたしを捨てた。そして水ためを掘った。

「水ためってナニ？」と思うでしょう。

イスラエル、中東では現在でもそうですが、雨が少なく水は貴重なので、丘の中腹に岩を掘って水ためを作り、水が斜面を流れて来ると、この岩の大きな水ために溜まるようになっていました。

それらは非常に大きくて、中には長さ 4.5m 深さ 3m のものもありました。

この中に水が蓄えられるのですが、多くの場合、岩を掘るとヒビや割れ目が見つかり、雨が降って水が流れ込んでも、そこから漏れ出てなくなってしまうのです。

全エネルギー、全労力、全ての時間を注ぎ込んで掘ったのに、ヒビの入った水ためは水を溜めることができません。

それなら使い道は一つだけ。死体を入れる。

全ての労力を注ぎ込んだものが埋葬室、つまり墓場として使われました。

主は、「わたしの民は、生ける水の川であるわたしを捨ててこんな水ためを掘っている。彼らが夢中になってやっているそのような追及や葛藤はつまらないもので、それらは水を溜めることはできない。」

と言っています。その通りです。

その姉妹や兄弟は、もしかしたら水を溜められないかもしれません。

「彼女は本当に僕を満たしてくれるんだ。」「彼は絶対大丈夫。」

〈その人はクリスチャンなの？〉「ん…違うけど…」「でも彼女はとても美人で。」「彼は本当にステキな人よ。」とか何とか。「本当だよ。彼女は/彼は、本当に私を喜ばせてくれるし、一緒にいるととてもドキドキする。」

それは壊れた水ため。水を溜めることができず、いずれ、あなたを葬ってしまうのです。

ここでは、御父が心を痛めておられます。

あなたを責めているのではなく、愛しておられるから。

「わたしの民は全て、二つの悪に走った。まず初めにいのちの川であるわたしを捨て、それから水ためを掘った。多大な時間を費やして、何年も何年もの月日を無駄にして、水を一切溜めることのできない水ためを掘っている。」

天国では、もっと具体的に言えば新エルサレムでは、中央を川が流れていると書いてあります。これは間違いなく本当の川でしょう。

しかし今現在、絶え間なく流れる水と言えば、真の喜びをもたらし、本物の繁栄を与えてくれる聖霊の

ことです。

そこでよく聞いて下さい。

新しいエルサレムができる前に何かが起こりますね。

それが登場する前に、新しい天と地の前に、千年王国と言われる時代があって、千年の間、真の平和と繁栄が現在の地上にもたらされます。20 章でお話しましたね。

主が戻って来られて千年王国が始まる時、面白い事に、並列するものがあるのです。

ゼカリヤ書 14 章。

その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。(ゼカリヤ書 14:4)

主は来てオリーブ山の上に下り立ちます。そこは、主が天に挙げられたのと同じ場所。

エルサレムの東側にある丘で、主はそこから天に昇り、また下りて来られます。

何でも上に上がれば下りて来る。主も戻って来られます。

そして主が戻ってくる時には、ゼカリヤ書によると、

その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山は、その真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。(ゼカリヤ書 14:4)

主の再臨の時には新しい流れの川が開かれ、それによってイスラエルの地形が根本から変わります。川の一部は地中海に流れて行き、別の部分は死海に流れ込みます。

死海ではとにかく浮いてしまって沈むことはできません。どんなに太っていても、どれだけ堅肥りでも関係ない。死海は塩度がとてつもなく高くて、浮き輪も何もなくとも、何の支えもなしに水の上に座ることだってできます。それほど塩度が高いのです。

しかし、ゼカリヤ書 14 章と並行してエゼキエル書 47 章には、この川が死海に流れ込んで、死海に癒しをもたらす、と書いてあります。

この水が流れ込むことで、死海に命が宿る。これは、常に聖霊のみわざですね。

以前は死んでいたものが、今いのちを得る。

この川が流れて行く所はどこでも、そこに群がるあらゆる生物は生き、非常に多くの魚がいるようになる。(エゼキエル書 47:9)

主が来られると、山が裂けて谷ができ真水が流れ、それは死海に流れ込み、地中海にも流れ出て行きます。

エゼキエル書 47 章とゼカリヤ書 14 章に登場する新しい二つの川は繋がっているのです。

更にエゼキエル書 47 章は、皆さんと私にこんなことを伝えています。

エゼキエルの前にある人が現れて「その川の中に入れ。」と言い、**私にその水を渡らせると、それは足首まであった。(エゼキエル書 47:3)**

それからその人は「出て来い。」と言い「また入れ。」そこでエゼキエルがまた入ると、

彼がさらに一千キュビトを測り、私にその水を渡らせると、水はひざに達した。(エゼキエル書 47:4)

そしてまた「出て来い。」エゼキエルは出ました。「もう一度渡るんだ。」と言われて再び渡ると、**彼がさらに一千キュビトを測り、私を渡らせると、水は腰に達した。(エゼキエル書 47:4)**

彼らはこれを一緒にしたのです。

エゼキエルは四度目も「もう一度入れ。」と言われますが、**水かさは増し、泳げるほどの水となり (エ**

ゼキエル書 47:5、今度は頭の上まで水がありました。

興味深いことに、この千年王国の川があなたや私に伝えていることは、いのちの泉と聖霊の働き、臨在、力との関係です。

それが最終的に喜びと繁栄をもたらすのです。

いいですか？ あなたは自分が望む分だけ、深みに行くことができます。

主は、私たちが自分で決めた所よりも深くまで行け、とは言いません。

でもあなたが望むなら、どんな深みにでも連れて行ってくれます。

「どういう意味？」

足首の深さまで足を濡らしている人たち。

彼らは救われていて、聖霊が宿り、新生しています。約束により頼んでいる彼らは、正しい所に立っていて足を濡らしており、王国の一員です。素晴らしい。

別の人たちは「もっと深みにいきたい」と言って、膝の深さまで入って行きます。

聖書で“膝”と言えば、当然“祈り”のこと。

「主よ。私はただ足が濡れるだけではなく、もっと深みにいきたいのです。

主の働きの一員とならせて下さい。私を祈り手として用いて下さい。」

そう言って執り成しの働きをし、霊で祈ります。素晴らしいことです。

また別の人たちは「更にもっと深みにいきたい」と言って、エゼキエル書 47 章にある通り、腰の深さまで入ります。

“腰”は“繁殖”を意味する部分で、固い土台に立つだけでなく、膝まで入って執り成しの祈りをするだけでなく、腰の深さまで入って証をします。

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。

そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。

(使徒 1:8)

更に深く関わって腰まで入り、証人になろうと決心した人たち。

でも核心は、あなたが望むならあなたや私にも行ける場所があるということ。

それは、頭を超える深さ。

「主よ。ただ全てを委ねます。私の人生をあなたの思うままに使って下さい。

私は霊であなたを賛美します。私の人生を無条件で献げます。

主よ。どこへ向かうのか、私には全く分かりませんが、私は完全にあなたのものです。

力を注いで下さい。賛美を溢れさせて下さい。

私の中で、また私を通して、あなたの栄光のためにみこころを成し遂げて下さい。」

あなたはどの深さまで入りたいですか？

主は、私が望む以上の深みには連れて行きません。

足を濡らすだけでも、主は責めたりしません。でも言われます。

「もしあなたが選ぶなら、まだまだ先がある。もっともっとたくさんある。」

皆さん、川のどの深さまでいきたいですか？

流れに呑み込まれて、「主よ。自分の足では全く立てません。あなたが私を導いて一緒に為して下さい」

い。私の想像を遥かに超えるようなことを、今までに経験したこともない新しいことを何でも、みこころのままに行って下さい。」という所。

それは、ワクワクする所です。

流れの激しい川でラフティングをしたことがありますか？

すごくエキサイティングで楽しいですよ。流れに激しく上下されながら、次は何が起こるのか、最後はどうなるのかと、とても面白い。時に怖いことも少しはありますよ。

でも、とっても楽しい。

それとも、同じ川で憂鬱に、ただじっと座っているだけ？

或いは、浅瀬の流れが緩やかな所で、何となくジャブジャブと漕いでみる？

急がないと。まだ1節です。

天国では、聖霊の臨在、パワー、喜び、繁栄を示すこの川が流れていることは間違いありません。でも、これは実際の川というだけでなく、主の霊が活発に動いていることのシンボル、しるしであり、私たちは永遠の世界で、その流れの中を、なお深く深く行き続けることができます。

水晶のように光るいのちの水の川が、**都の大通りの中央を流れていた。川の両岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。(黙示録 22:2)**

これ！ グッドニュース以外の何ものでもない。グッドニュースって？

天国には食べ物がある。新しいエルサレムに、ですよ、皆さん！

「天国でも食事をするのでしょうか？」と人は聞きますが、私の答えは「私は食べる！」

「食べられるの？」 勿論！ イエスは復活の体で何をしましたか？ ルカの福音書。

イエスご自身が彼らの真ん中に立たれた。(ルカ 24:36)

彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。(ルカ 24:37)

イエスは、「ここに何か食べ物がありますか」と言われた。(ルカ 24:41)

それで、焼いた魚を一切れ差し上げると、イエスは、彼らの前で、それを取って召し上がった。

(ルカ 24:42-43)

だから、天国でも食べています。

川の両岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。(黙示録 22:2)

皆さん、こういった果物を食べるんですよ。

次見て下さい。すごいのは、これらの木に実がなるだけでなく、

また、その木の葉は諸国の民をいやした。(黙示録 22:2)

「おっと!! ちょっと待って!!」と思うでしょう。癒し!? 新エルサレムで!?

新しい体に癒し!? つまり、病があるということ？ 違います。

ここでの“癒し”はギリシャ語で“Therapeia”

ここから来た言葉は“Therapy(セラピー)”、その通り。

これは病からの癒しではなく、健康を維持することを意味しています。

事実、原語では「陽気にさせる」とか「元気づける」等、多くの意味を含んでいて、陽気で元気になるためにこの木から食べるのです。

病気にはなりません。あなたを元気づけ、ウキウキさせるための木です。

もはや、のろわれるものは何もない。(黙示録 22:3)

アダムが罪を犯して以来、この世は全く呪いの下にあり、私たちを取り囲んでいます。

でも時が来れば、**もはや、のろわれるものは何もない。**

神と小羊との御座が都の中であって、そのしもべたちは神に仕え、(黙示録 22:3)

私たちは神に仕えます。

この“仕える”というのは、あなたの中にあるもの、ずっとやりたかったこと、例えば、機械が好きな人なら遂に機械いじりに没頭できるようになるということ。

それは王の栄光のためで、あなたは完全に満足します。

ミュージシャン、アーティスト、テニスプレーヤーだったり…会計士。あなたが会計に情熱を持っているならそれ。

何であれ、あなたが大好きなこと、興味や情熱を持っていることが、新エルサレムに行った途端に色あせると思いませんか？ それは絶対に違います。

現実への考慮とか、経済的問題とか、時間がなくて、など色々な理由でやりたいのにできないこと、何よりもワクワクすることを、天国では全身で満喫することができるとはっきり言えます。そのように、私たち皆が主に仕えて言うのです。

「これをするために生まれたんだ！」「ずっと、これをやりたかったんだ！」

神の御顔を仰ぎ見る。(黙示録 22:4)

今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、その時には顔と顔とを合わせて見ることになりま

す。(I コリント 13:12)

私たちは主の顔を見ます。するとどうなるのか。ダビデは言いました。

私は、正しい訴えで、御顔を仰ぎ見、目ざめるとき、あなたの御姿に満ち足りるでしょう。

(詩篇 17:15)

近い将来、その日、主を仰ぎ見て、主と顔と顔とを合わせると、その瞬間に、

私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。

しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となる (I ヨハネ 3:2)

その日が楽しみです。

神の御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の名がついている。(黙示録 22:4)

何と輝かしい日になることか。

私は、皆さん全員の額に主の名前があるのを見るでしょう。でも、自分のは見ません。

「なぜ？ ジョン、天国に行かないの？」いいえ、私も行きますよ！

自分の額は見えないんです。

もし主が、私たちの手に名前を書かれたとしたらどうでしょうか。

「はっはっはー。これ、見てよ！」私は、書かれるのが額で良かったと思います。

天国では、みんなの額にイエスの御名を見ますが、現在のこの地上でもそうあるべきです。パウロは言いました。

私たちは今後、人間的な標準で人を知ろうとはしません。(II コリント 5:16)

と言っても、問題を見逃しているわけではありませんよ。

そうではなく、キリストの中に在る者として人を見ると決めたのです。わお！

どうか、希望の神が、信仰によるすべての喜びと平安であなたがたを満たし、聖霊の力によって希望にあふれさせてくださいますように。(ローマ 15:13 新改訳 2017)